

アイフレイルに関する意識調査 2024

第28回日本眼科記者懇談会
2024年9月3日(火) 1830-2030
Web

平塚義宗

順天堂大学眼科学教室

順天堂大学眼科学教室 平塚義宗



目的

アイフレイルの普及啓発活動に必要な

広報活動の方針、対象、訴求内容などの戦略を策定するため、

日本人の目の健康に対する意識、関心度、目の病気の知識度、不安、アイフレイルの概念の受容度、共感ポイントなどを把握する

方法 1

- ・ インターネット調査
- ・ 12,491名

調査対象者:「インテージ*・ネットモニター」より抽出

調査手法: インターネット調査

対象者条件: 40~89歳。年代、性別、都道府県について、人口構成に準じサンプル設計

対象者数: 有効回収数12,491

調査依頼数: 104,374(有効回収率12.0%)

*国の機関も利用するマーケティングリサーチ会社
総務省 科学技術研究調査
厚生労働省 社会福祉施設増設及び介護サービス施設・事業所調査
内閣府 市長の社会貢献意識調査 など

方法 2

調査実施時期 2024年6月24日(月)~28日(金)

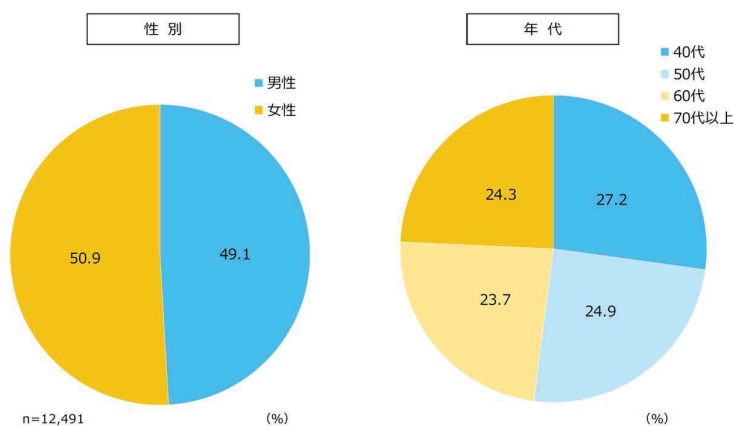
調査内容

- ・ アイフレイルの認知
 - ・ 健康面で不自由を感じている/健康維持・予防に努めている
 - ・ 緑内障について
- 目について気になっていること
- ・ かかりつけ医の存在について

2021年調査との比較

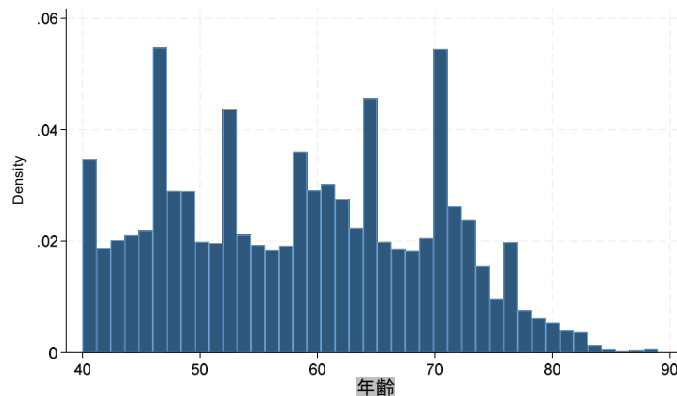
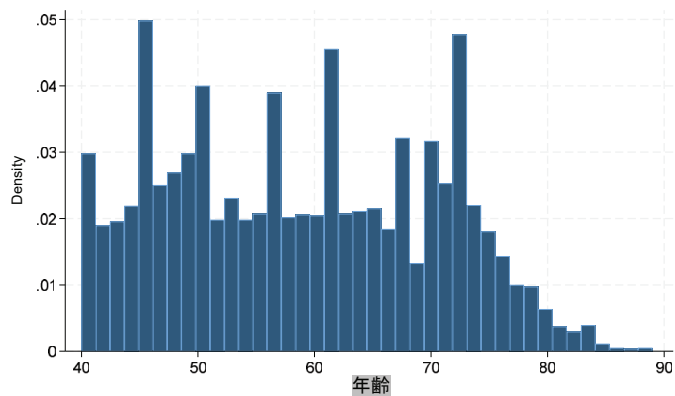
結果

- 男女
 - 40代、50代、60代、70代以上
- ほぼ同数



年齢分布

- 年齢分布も似ている



アイフレイルの認知

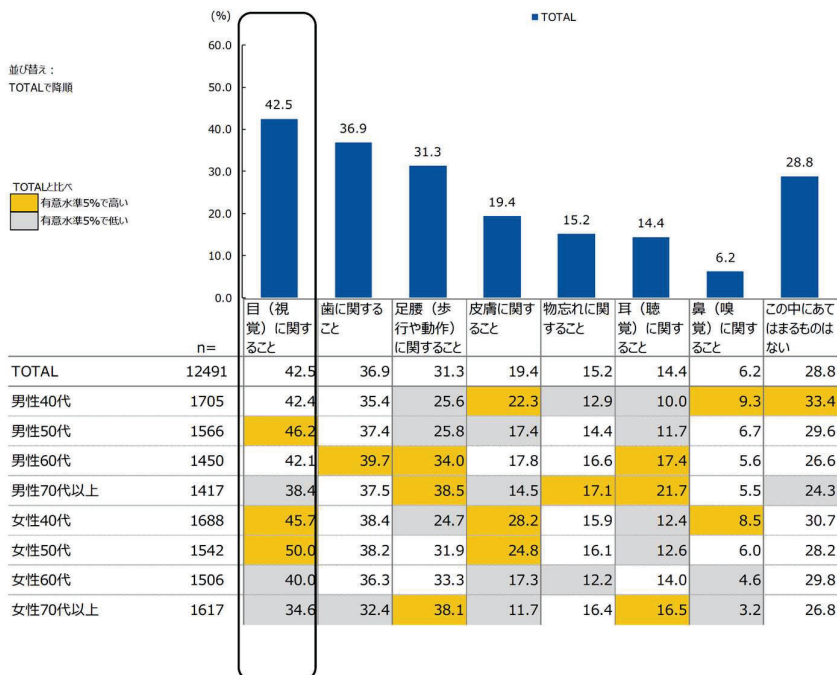
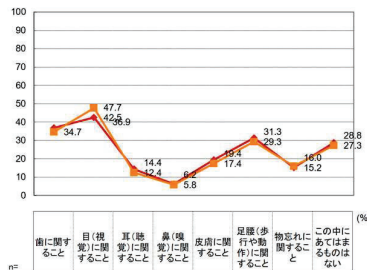
- 全国の認知度が1割を超えた (知っている+聞いたことがある)
- 2021年 7.6% ⇒ 2024年 11.2% 有意に改善(p<0.001)
- フレイルは 27.2% ⇒ 37.1%

■ 言葉の意味を知っている ■ 聞いたことがある ■ 聞いたことがない



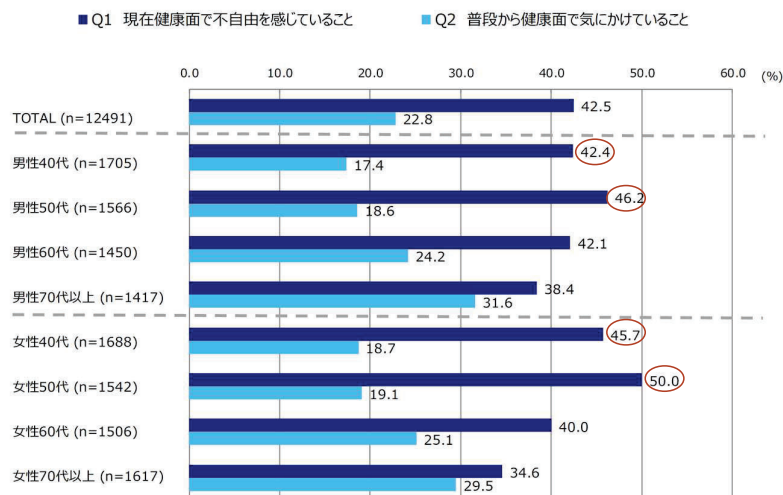
健康面で不自由を感じているもの

- 前回同様、目がトップ
- 40/50代が多い



目の健康不安

- 不自由: 男女ともに50代と40代が**高い**
- 健康維持・予防につとめている: 男女ともに50代と40代が**低い**
- ニーズは高いが行動なし ⇒ ターゲット



緑内障

- 有病率 6.4%
- 緑内障の有病率:40歳以上の5%*

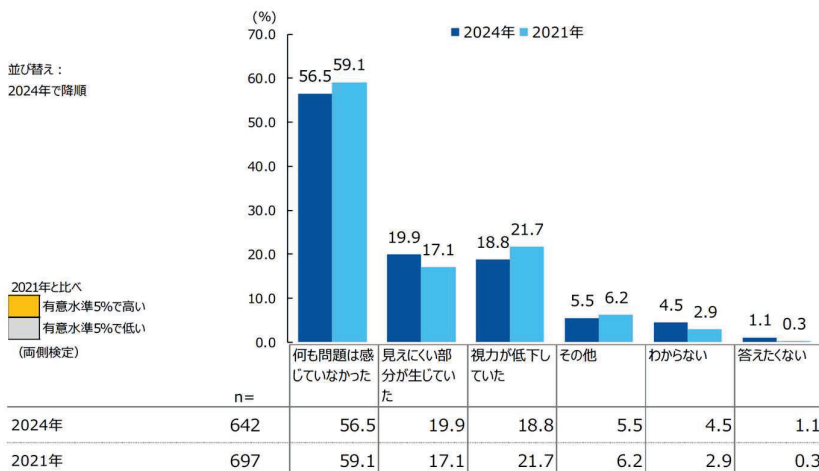
Q10 あなたは、緑内障と診断されたことがありますか。



*日本緑内障学会 緑内障疫学調査
<https://www.ryokunaisho.jp/general/ekigaku/tajimi.php>

緑内障

- 診断時症状無しが60%

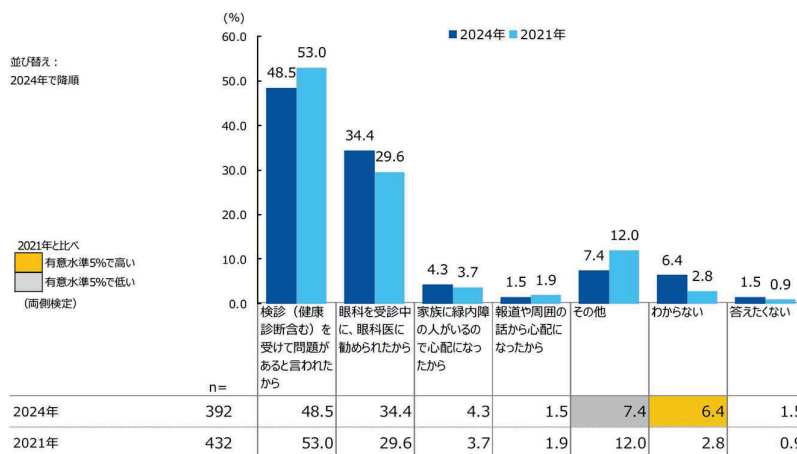


並び替え：
2024年で降順

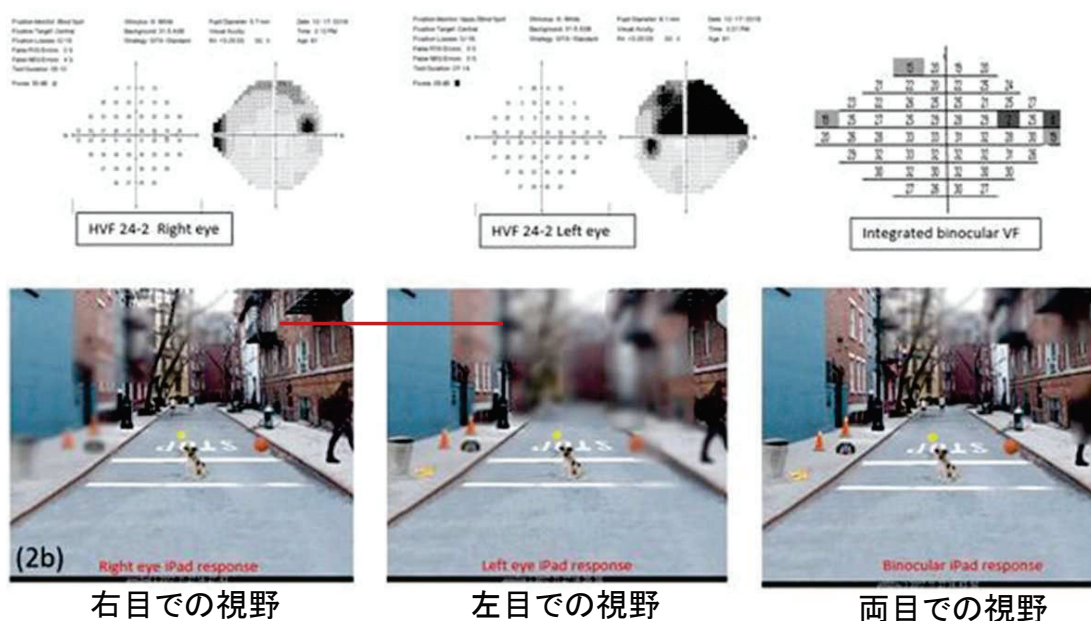
2021年と比べ
 有意水準5%で高い
 有意水準5%で低い
 (両側検定)

緑内障

- 5割: 検診で指摘
- 3割: 眼科受診中に眼科医に検査を勧められた
- 自ら検査(家族にあり+報道・周囲の話)は5%程度



視野が欠けていることは自覚しにくい



➡ 両眼で見ると補填されて気づきにくい

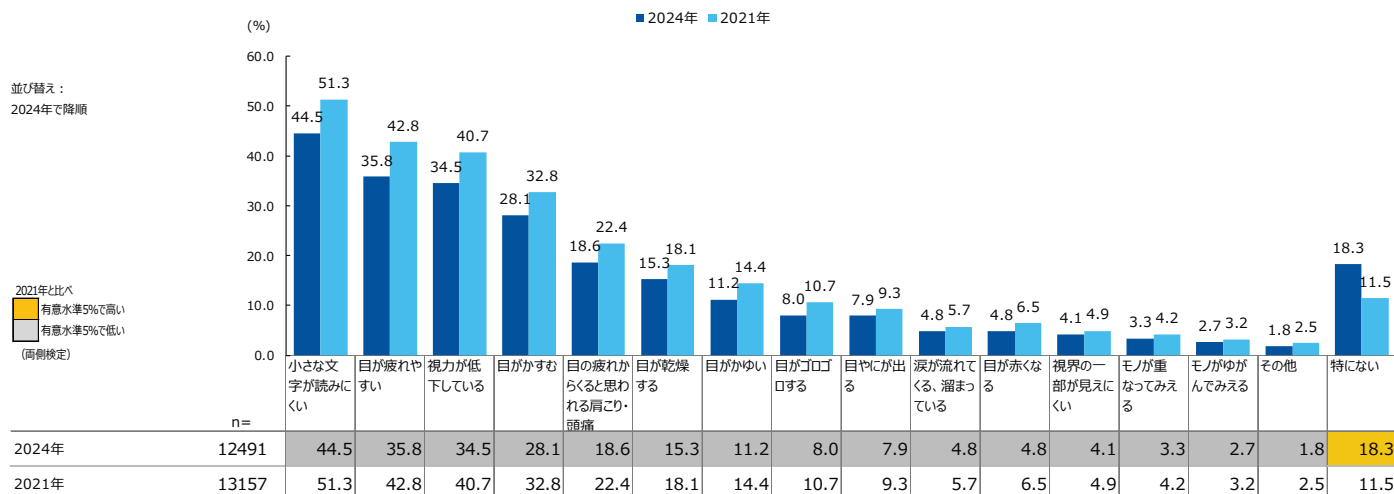
緑内障に対する国民や行政の理解は？

- 国民
 - 緑内障の9割は未発見¹⁾
- 行政
 - 特定健診で眼底検査は18%²⁾
 - 職場の健診の必須項目は「視力検査」のみ
 - 眼底検査は行われていない

1) 日本緑内障学会：日本緑内障学会多発緑内障検出調査(調査：多発緑内障)報告。https://www.ryokanisho.jp/generalc/kigaku/tajimi.php.
2) 岡山県 厚生労働科学研究費補助会「成人眼科検診による眼科疾患の重症化予防効果及び高齢緑内障予防のための研究」報告書、2021

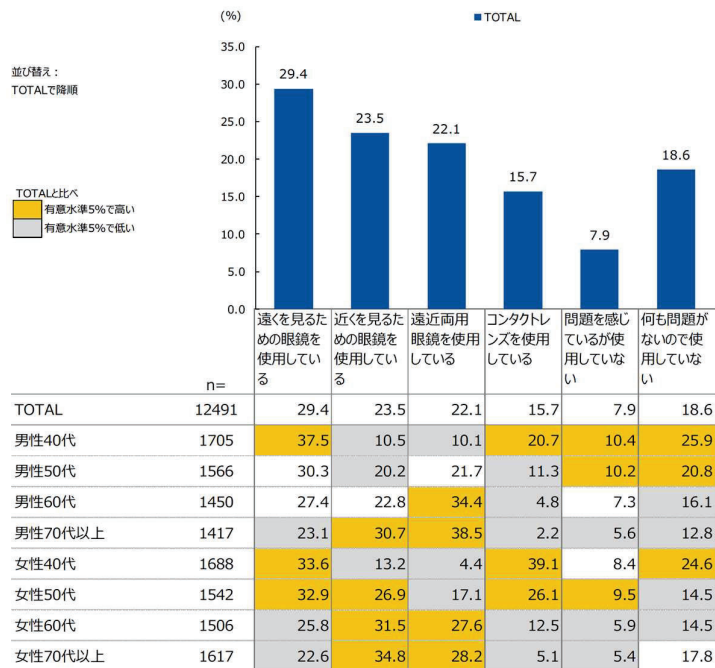
目について、気になっていること

- 「小さな文字が読みにくい」が最多 ⇒ 老視
- 「目が疲れやすい」が2位 ⇒ 眼精疲労



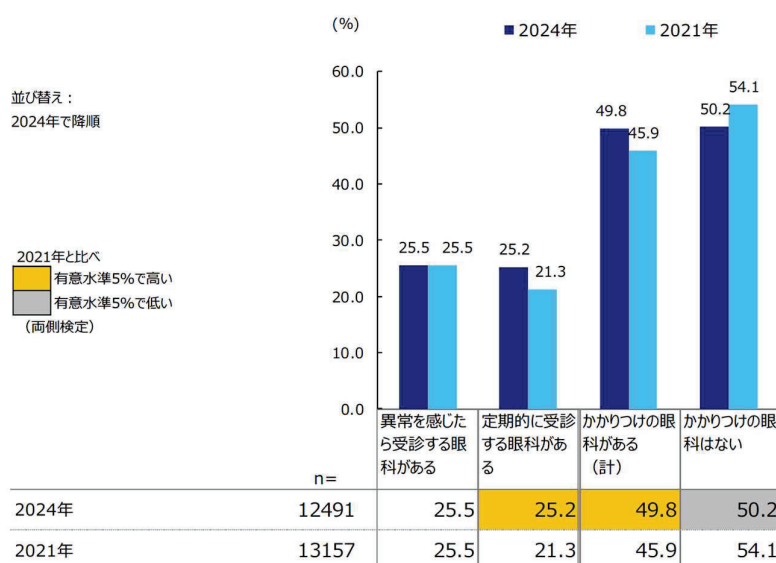
眼鏡(老視)に対する意識

- 40-50代:問題を感じているが使用していない
 - 10%
- 50代:近用+遠近両用
 - 男性 42%
 - 女性 44%



かかりつけ医の存在

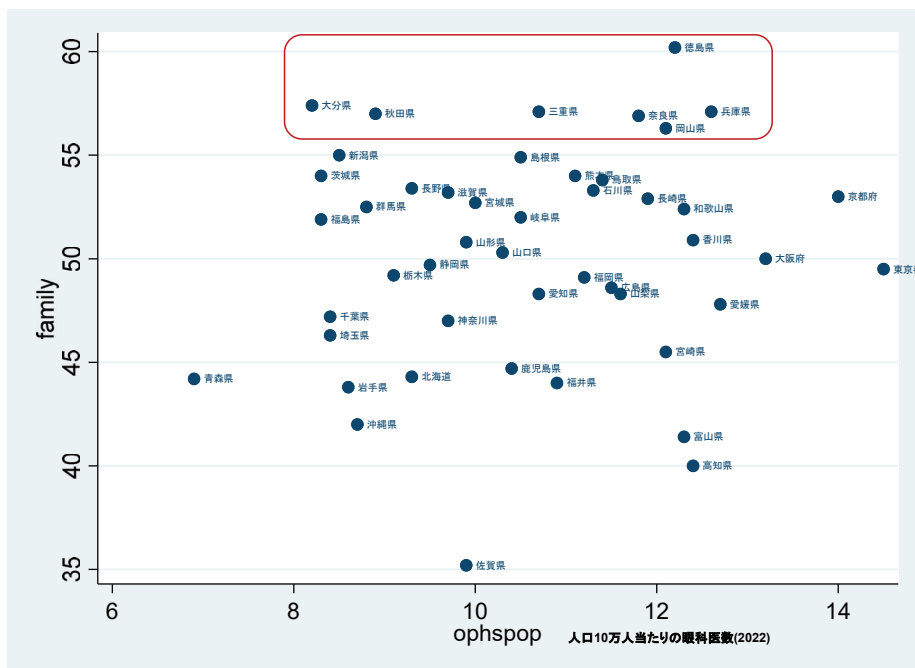
- 半数はかかりつけ医がない



都道府県別 かかりつけ医 がいる割合

人口10万人当たりの
眼科医数と関連なし
($p=0.498$)

かかりつけ医
がある(%)



かかりつけ医がないと

目について普段から健康維持・病気予防に努めている

• 0.71倍* (95%信頼区間 0.67-0.75)

問題を感じているが眼鏡やCLを使用していない








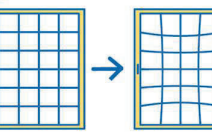

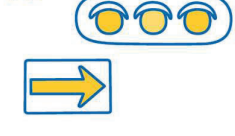
• 1.56倍* (95%信頼区間 1.42-1.72)

緑内障に関する知識(悪化するまで気づきにくい病気である)

• 0.52倍* (95%信頼区間 0.47-0.56)

*年齢、性別、年度、都道府県で調整

アイフレイル自己チェック

<p>1</p>  <p>目が疲れやすくなった</p>	<p>2</p>  <p>夕方になると見にくくなるが増えた</p>	<p>3</p>  <p>新聞や本を長時間見ることが少なくなった</p>	<p>4</p>  <p>食事の時にテーブルを汚すことがたまにある</p>	<p>5</p>  <p>眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった</p>
<p>6</p>  <p>まぶしく感じやすくなった</p>	<p>7</p>  <p>はっきり見えない時にまばたきをすることが増えた</p>	<p>8</p>  <p>まっすぐの線が波打って見えることがある</p>	<p>9</p>  <p>段差や階段で危ないと感じたことがある</p>	<p>10</p>  <p>信号や道路標識を見落としそうになったことがある</p>

アイフレイルチェックリスト Ver. 1.1 (2023年11月改訂) ※いくつかの質問について尋ね方の表現を改変し、信頼性、妥当性のさらなる向上を図りました。



2つ以上当てはまった人はアイフレイルかも？

アイフレイル
アドバイズドクター

866名 (2024/8)

アイフレイル アドバイズドクター



アイフレイル アドバイズドクターはアイフレイルの診療・研究・啓発活動を行っている眼科医のことです。

※表記は登録順です

北海道 | 東北 | 関東甲信越 | 東京 | 東海北陸 | 近畿 | 中国四国 | 九州

考察

- 認知度:3年で1割を超えた ⇒ フレイルを目指す
- 眼の健康不安は40・50代が多く、取り組みは少ない
 - (フレイルは高齢者対策も)アイフレイルは40-50代で気づいてもらい、対策をとるべき
 - 緑内障:失明、視覚障害は70代以降であっても発症は40-50代
 - 老眼など目の不調を自覚し始める40-50代にアピールしやすい
- 緑内障:診断時症状無しが60%で、その5割は検診で指摘 ⇒ 眼科検診の重要性
- かかりつけ医:50%はかかりつけ医がなし ⇒ 知識低く、問題放置の傾向
 - チェックリスト ⇒ アイフレイルアイドクター

結論

- アイフレイルの認知度は3年で1割を超えた
- アイフレイルは40-50代で気づいてもらうことが有効
- 緑内障の発見には眼底検査 ⇒ より多くの自治体や企業で
- 個人に対して:目のかかりつけ医を
 - チェックリスト ⇒ アイフレイルアイドクター